

水野洋一議員

質問①
昆布生産の不漁に伴う施策等について

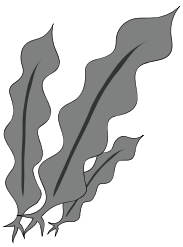
問 現時点における、今年の昆布生産において、各地区別の実日数について。

答 9月17日現在の採り昆布漁は、日高中央漁協様似支所の鵡苫は4日、様似は7日、様似平宇は9日、えりも漁協冬島支所の平宇は15日、冬島は10日、幌満・旭は12日。鵡苫は、8月27日に採り昆布漁を終了している。

問 不漁に対応する一つの方法として、共済組合の保険があるとのことですが、制度の概略と加入者数について。

答 北海道共済組合が行っている「漁獲共済」という種類で、漁獲・生産金額が過去の漁獲・生産実績等を基に定められる金額に達しない場合、減収分を一定割合で補償する保険方式で、漁業経営を円滑に継続できるよう共済金が支給される。

共済掛金の75％が国から補助され、加入者数は、様似支所93名、冬島支所の加入者はいない状況である。



問 昆布生産不漁に伴う、低利の貸付制度等について。

答 漁協により名称や内容に若干の違いはあるが融資制度がある。日高中央漁協は、貸付限度額１００万円以内、貸付期間5年以内、貸付利率2．0％以内。えりも漁協は貸付限度額１００万円以内、又は過去昆布漁3か年平均の水揚金額の20％以内のいずれか低い金額、貸付期間は5年以内、貸付利率は1．8％となっている。

この制度の貸付利率に対し、町では昆布採取漁業者の貸付利率負担が0．9％となるよう各漁協へ利子補給を実施している。

質問②
水道水の濁水発生と今後の対策について

問 今年6月の濁水発生の状況とその原因と被害さらにはその対応について。

答 本町3丁目にある上水道配水池は、本町から鵡苫までに配水する西側配水池と栄町から冬島までに配水する東側配水池に分かれている。

6月27日濁水発生。水の濁りが黒い色であったこと、東側配水池から最初に給水される栄町地区で濁水発生の問い合わせの第一報があったことなどから上水道配水池を点検した結果、堆積していたフロック、水中の濁質を取り除くために注入した薬品と凝集したものなどの流出であることが原因と判明した。

被害については、幌満・旭を除いた全地区に渡り濁水が発生した6月27日から8月30日までに濁り水などの問い合わせ件数は72件。濁りを解消するため水を流し続けていただいた町民へは、8月・9月分の水道料金を異常水量とし、上水道分60件、３４，９５０円、下水道分46件、２２，８７０円を減額認定した。

対応については、8月2日の自治会回覧の全戸配布で、濁水の原因と配水池等の清掃実施、今後も清掃が完了する10月末まで濁りが出る可能性があることを周知。9月20日の全戸配布で、配水池清掃の実施日を周知する予定。上水道配水池の水中ロボットによる清掃業務及び冬島配水池の清掃業務を実施する。

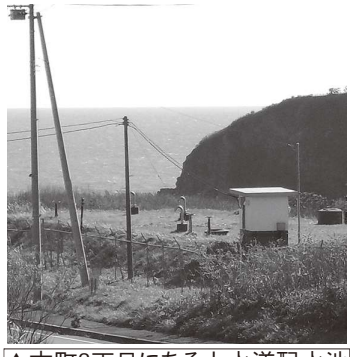
問 昨年5月に発生した濁水の原因との関連について。

答 濁水は、配水管へ過度の水圧負荷がかかったことにより、水の中に含まれている鉄やマンガンが塩素消毒を行うことにより酸化して、水道管や消火栓、仕切弁等に付着したものが、水流や水圧の変化によって剥がれ落ちたことによるものである。今回の濁水に係わる施設点検の結果、冬島配水池においても上水道配水池と同様の堆積物が確認されていることから、昨年５月に発生した濁水と関連して堆積物の引込みがあったものと推測している。

問 ２年連続で発生した濁水発生について、根本的な対策に着手する考えがあるか、ないかについて。

答 濁水の原因について根本的な対策に着手している。８月20日、栄町浄水場浄水池の清掃を実施。10月7日から1日にかけて上水道配水池の水中ロボットによる清掃業務、10月23日に冬島配水池の清掃業務を予定。水道主要施設の配水池などの清掃業務により、濁水の主たる原因を解消できるものと考えている。

根本的な対策については、水道施設老朽化の増加に伴い、構造物及び設備、管路の更新、修繕が必要なことから、計画的対策を進め、安心・安全な水の供給に努める。



▲本町3丁目にある上水道配水池



鈴木 隆 議員

質問① JR北海道日高線の早期全面復旧について

問 ＪＲ北海道の経営責任は株主である国であり、国は被災路線の早期復旧に責任を持つべきであると考えるが様似町としてはどう受け止めているのか。

答 経営的な責任は株を実質的に所有することを理由にすべて国にあるとは言えないのではないかと考える。鉄道護岸のため、ＪＲ北海道が復旧するのが本筋だと思うが、単独では困難な状況であるため、国が国土保全の観点からＪＲ北海道に代わり復旧整備できる仕組みの創設を国に要望してきているところである。

問 バス転換することが本当に障害のある方を含めて交通弱者に100％適切な乗り物であるとお考えか。

答 バスが100％適切な乗り物であるとは言えないが、仮にバス転換となった場合のメリット・デメリットを総合的に判断して、現実的でより良い方法を選択していかなければならないと考えている。

問 インバウンドを含む様似町を訪れる旅行者にとって、鉄道をなくすことによりどのような影響が出てくると想像されるか。

答 鉄道を利用するかたについては、列車の旅が目的だったりと、鉄道マニア的な旅行者が多いと思われるので、そのような層の旅行者には影響があるのではないかと想像する。

問 日高線は、インバウンドを含めた個人観光客にとっても信頼性の高い公共交通機関である。改めて日高線を残すためにご尽力する考えはあるか。

答 列車でもバスでも不便な部分はたくさんあり、現状の不便な部分をＪＲ北海道にぶつけて、この町にとって大事なものは何かということを議論すべきと考える。

質問② 学校給食の早期実施について

問 様似町で学校給食をしていない要因は何ですか。

答 今までいろいろな町の施策を進めてきた中で、多くの起債償還もあって、財政的に厳しい状況でここまで来てしまったということが、一番の理由であると押さえている。

問 国からの給食費に充てられる補助金等の額を教えていただきたい。

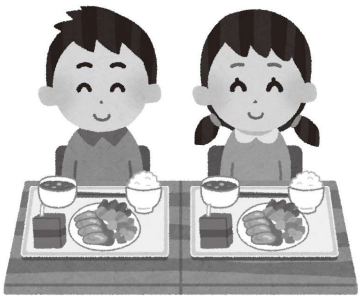
答 交付金として小中学校合わせて700万円が算入されている。

問 この補助金を使って学校給食の実施をできるのではないかと考えるがいかがか。隣のえりも町では自校方式で学校給食を行っているとのことだが、近隣の町に頼らず具体的に動き出す考えはあるか。

答 自校式にしても、給食センターでやるにしても多額の費用を要することから、単独ではなく広域的に進めていくのが得策ではないかと考えている。

問 朝食を食べている子供が小学校で84・6％。中学校で88％との常任委員会での報告があった。このことでも学校給食の大切さが分かるように思うがいかがか。

答 小学校6年生と中学校3年生が調査対象となっていることから、調査年度によっては波がある状況である。いずれにしても生活習慣として、しっかり三食摂ることが大事であることから、学校を通じて保護者への喚起を促すよう取り組んでいく必要があると考える。



質問③ 鵜苫地区墓地線の道路改良工事の進捗状況は

問 どのような工法で道路改良工事を計画しているのか。

答 内部で協議している段階であり、工法等の具体的な検討までには至っていない。

問 迂廻路について、地権者との話し合いはあったのか。

答 迂廻路と決定していませんので、地権者との話し合いはしていない。

問 地域の安全対策はどう考えているのか。

答 現状での利用をお願いする中で、要望がある場合はアスファルト舗装への変更や段差の解消などについて検討する。

質問④ 空き家対策について

問 町内の空き家は増えているのか。できれば5年前、10年前からの状況を教えてほしい。

答 平成23年度空き家軒数153軒、そのうち住居可能軒数122軒、住居不可能軒数31軒。平成28年度空き家軒数166軒、そのうち住居可能軒数129軒、住居不可能軒数37軒。5年間で13軒、率にして8．5％増加している。